

## あいさつの力

船引小学校長 安生昌弘

今日はあいさつにまつわる話をします。この前、用事があって、船引高等学校に初めて出かけました。午後4時半頃、高等学校の駐車場に車を駐めて玄関へと歩き出しました。高校は放課後になったばかりの時間でしたから、帰るために校門へ向かって歩いている生徒が何人もいました。その生徒一人一人が全員、知らないおじさんであるはずの私の顔を見て、張りのある声で「こんにちは」とあいさつをしてくれるのです。玄関から入って廊下を歩いていると、今度は帰るために昇降口に向かう生徒や部活動に急ぐ生徒がたくさん歩いていました。するとまた、その生徒一人一人が全員、知らないおじさんであるはずの私の顔を見て、張りのある声で「こんにちは」とあいさつをしてくれるのです。私はびっくりしました。どうしてかと言うと、あいさつは高校生より中学生、中学生より小学生の方がしっかりできると、私は勝手に思い込んでいましたから、高校生が、しかも一人残らず全員が、気持ちの良いあいさつをする姿は意外だったからです。また、同時にとてもうれしい気持ちになりました。なぜ、あいさつでうれしい気持ちになったのでしょうか。



「おはよう」というあいさつがありますね。どんな意味だか分かりますか。考えたこともないでしょうね。「おはよう」は「お早く」という言葉を言いやすくした言葉です。実は「お早く起きてご飯を作ってすばらしいですね」とか「お早く学校へ行こうとしてすてきですね」とか「お早く学校に来て準備をして助かります」とかを短く省略した言葉が「おはよう」なんです。

「こんにちは」は「<sup>こんにち</sup>今日は元気ですか」を短く省略した言葉ですし、「さようなら」は「帰らなければならぬのですね。<sup>さよう</sup>左様なら(そうであるなら), 別れたくないけれど仕方ない」を短く省略した言葉です。「ありがとう」だって「あなたのしてくれたことは<sup>あ</sup>有り難い(めったにない)ことです。感謝しています。」の有り難いを言いやすくした言葉なんです。

たくさんのあいさつのうち、4つのあいさつの元の意味を話しましたが、何か気づきませんか。そうなんです。全部があいさつする相手のことを思いやっている言葉なんです。その他のあいさつも実はそうなんです。だから高校生にあいさつをされた私は、とてもうれしい気持ちになったのです。あいさつは思いやりという心で人と人をつなぐ、おまじないのような言葉です。こんなすてきな言葉だったら、相手よりも先にあいさつした方が良いに決まっています。どんどん人と人をつなぐあいさつをしてください。その時に相手の顔を見て、そして張りのある声であいさつすると、より一層、優しい心が伝わります。私のようにうれしい気持ちになる人を増やしてください。